

## PROGRAM NOTE

2001

近藤譲：テラチナ

6 楽器のための

**Terracina**

for 6 Instruments

6 楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン、チェロ、ピアノ、打楽器）のための《テラチナ》は、2001年に書かれた。題名の「テラチナ」は、地名で、数々の建造物遺跡が往時の繁栄を想わせる古代の港町。ローマの南に広がるラティウム（ほぼ現在のラティナに当る）の海岸に位置し、ギリシャ・ローマ神話と深い関わりのあるチルチェオ山の近くに在る。私は、この作品を書く前の年に、ラティナのポンティーノ音楽祭に招かれた折にこの地を訪ね、強い印象を受けた。

しかし、この曲の場合も、これを題名として選んだ理由は、その言葉の美しい響きにある。地名を題名にしているとはいえ、この作品は、その土地への私の印象を表現した標題音楽であるわけではなく、全くの抽象的な音楽である。だがそれでも、この曲には、私の他の作品にはあまり見られないようなラプソディー的な流れが感じられ、そこには、テラチナという土地の極めて多彩で劇的な神話・歴史的背景が反映している。そう言ってもよいのかもしれない。

近藤譲

初演：2002年10月(オランダ アムステルダム)

初演者：佐藤紀雄(指揮)、アンサンブル・ノマド

委嘱：Barton Workshop(Amsterdam, the Netherlands)

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ALCD-67

演奏時間：12分